

6月22日(月曜日)「窮して祈ろう」

【新改訳 2017】

詩篇 102・1－28

「こうして、国々は主の御名を恐れ、地のすべての王はあなたの栄光を恐れましょう。なぜなら、主はシオンを建て、その栄光のうちに現れ、窮した者の祈りを顧み、彼らの祈りをないがしろにされなかったからです。」(15－17節)

「窮した者の祈りを顧み……ないがしろにされない」とは、なんと大きな慰めであり、励ましではありませんか。

この詩の表題には、「悩む者の祈り。彼が気落ちして……」とあります。人生はまことに不思議であり、不合理に思われることがたくさんあります。また、自分の罪や弱さのゆえに困窮してしまうことがよくあります。

この詩は、バビロン捕囚の終わりごろに苦悩の中で祈り、まもなく、あの都シオンを再建する日が来ることを、主なる神は永遠の王国を建てられることを歌ったものと思われます。一部は実現しました。

私たちも、どんなに困った時でも、お聞きくださる神に祈ろうではありませんか。

～祈り～

主よ。あなたはなんと大きなお心と全き力のお方でしょう。どうぞ、この者の祈りも顧み、お聞きください。

【学びのために】

祈りの成就について：神のお答えは、即座に答えられるものと、徐々に段階的に答えられるものがあります。どちらか一方だけではありません。「否」という答えもあります。

(参考区部) 1-11 節 苦悩の描写、12-22 節 信仰的瞑想、22-28 節 過ぎ去る人間と永

遠の神。